

「ほっとサロン13周年記念コンサート」 が開催されました

がん患者・家族が気軽に語り合い、ほっと癒やされる場所である「ほっとサロン」が、13周年を迎えられました。これも、小林様を中心としたお世話役のみなさまのおかげと感謝いたしております。

今年のコンサートは、昨年に引き続き、エレクーン奏者のLiLica*さんをお迎えしました。馴染みのある曲が玄関ホールに響き渡り、いつもの場所がまるで宇宙の中にいるような幻想的な場所へ変化したように感じられました。ご参加いただいた入院中の患者さんからは、「久しぶりに声を出して歌えて、気持ちがリフレッシュできました」と笑顔がみられました。そういえば入院中に歌うことなんてないですね。

がん治療を経験された患者さん同士の語り合いは、孤独感や不安が和らぐことに繋がります。これからも「ほっとサロン」が長く続き、患者さんご家族の笑顔が増えることを願っています。



「ほっとサロン」のご案内

日時: 毎週月曜日 10時～15時
(時間内は自由にご利用いただけます)
場所: 外来診療棟3階 外来化学療法室前
対象者: がん患者さん、そのご家族等

また、「ほっとサロン」では、以下の会も開催しています。

毎月1回 笑い療法士による「げらげら公衆歩」
20歳代～40歳代の女性患者の会「スマイル」
不定期で 39歳までに罹られた患者さんの会「AYA世代交流会」
お気軽にご利用ください。

問合せ先 **がん患者・家族サポートセンター** 電話:0853-20-2518・2545

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

8月15日～9月14日

対象者: **一般** 一般市民 **医療** 医療関係者 **本学** 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
8/16(金) 14:00～15:30	第6回 医学系研究基本講習 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授 大野 智 / 助教 富井 裕子	臨床講義棟2階 臨床大講堂	本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
8/19(月) 14:00～15:30	第7回 医学系研究基本講習 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授 大野 智 / 助教 富井 裕子	臨床講義棟2階 臨床大講堂	本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
8/23(金) 14:00～15:00	2019年度 臨床研究・統計セミナー「研究デザインと研究の構成要素」 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 准教授 鈴木 律朗	講義棟3階 L3講義室	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
8/23(金) 18:00～19:00	2019年度島根大学がん医療従事者研修会「口腔から支えるがん治療」 島根大学医学部附属病院 歯科口腔外科 助教 松田 悠平	みらい棟4階 ギャラクシー	医療 本学	島根大学
8/25(日) 13:30～15:30	市民公開講座「肺がん診療最前線 ～個別化医療時代の肺がん診療～ 「肺がん検診を受けよう!」 島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科 教授 磯部 威 「肺がんの抗がん剤治療最前線!」 島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科 講師 津端 由佳里 「がんゲノム医療ってなあに?」 島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科 医科医員 中尾 美香	ゼブラ棟2階 だんだん	一般	島根大学医学部内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学
8/25(日) 13:30～16:00	認知症の人の意思決定支援 ～その人らしい暮らしを支えるためにできること～ 「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインについて」 中央大学法務総合教育研究機構 教授 稲葉 一人 先生 「認知症のステーションアプローチと意思表明と選択の支援 ～地域連携型認知症疾患医療センターでの取り組み～」 オレンジほっとクリニック 京都地域連携型認知症疾患医療センター長、 梶原診療所 所長 平原 佐斗司 先生	臨床講義棟 大講義室	医療 その他	島根大学医学部附属病院 基幹型認知症疾患医療センター 島根県健康福祉部 (高齢者福祉課)
8/28(水) 17:30～18:30	2019年度 第7回栄養セミナー 「経静脈栄養のプランニングとモニタリング」 島根大学医学部附属病院 栄養サポートセンター 准教授 矢野 彰三	みらい棟4階 ギャラクシー	医療	島根大学医学部附属病院 栄養サポートセンター
8/29(木) 18:30～20:00	第8回 医学系研究基本講習 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授 大野 智 / 助教 富井 裕子	臨床講義棟2階 臨床大講堂	本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
9/4(水) 17:30～18:30	2019年度 第8回栄養セミナー 「経静脈栄養剤の側管投与方法・薬剤配合変化の指摘」 島根大学医学部附属病院 栄養サポートセンター 准教授 矢野 彰三	みらい棟4階 ギャラクシー	医療	島根大学医学部附属病院 栄養サポートセンター
9/13(金) 15:00～16:00	誰でも参加できる糖尿病教室 「秋をおいしく、楽しく」 島根大学医学部附属病院 栄養治療室 管理栄養士 飯田 香澄 「糖尿病の足壊疽を防ぐには?」 島根大学医学部附属病院 形成外科 講師 林田 健志	ゼブラ棟2階 だんだん	一般	島根大学医学部附属病院 糖尿病ケアサポートチーム

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2019年
8
Vol.70

NEWS



CONTENTS

・手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」を用いた
「胸腔鏡下食道切除術」を導入しました
・目下上昇中!
医師事務作業補助体制加算について

・「ほっとサロン13周年記念コンサート」
が開催されました
・島根大学医学部における
研修会・セミナー開催情報





手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」を用いた

「胸腔鏡下食道切除術」を導入しました

消化器外科 診療科長 ひらはら のりゆき
平原 典幸

概要

消化器外科では平成29年11月から高難度医療技術に指定されている「胸腔鏡下食道切除術」に対しロボット手術を導入しました。ロボット手術の導入により、より低侵襲で精緻な手術が可能となりました。

食道がんの外科治療

食道がんの手術では、胸部操作による食道切除、腹部操作による再建臓器の作成、頸部操作による消化管再建が必要であり、頸部・胸部・腹部にわたる広範囲なリンパ節郭清が必要なことから消化管手術領域では最も侵襲が大きい手術とされています。

従来の胸腔鏡下食道切除術

胸郭にφ1cm程度のポート創を数か所開け、ポートから約40cm長の胸腔鏡用カメラを挿入し、モニターに映し出される胸腔内の映像を見ながら約40cm長の手術用鉗子をポートから挿入して行う手術です。従来の開胸手術と比較すると、術中出血量が少なく、肋間筋を切除しないため術後の呼吸機能低下や肺炎が少なく、整容性にも優れており社会復帰が早いとされています。

ロボットを用いた胸腔鏡下食道切除術

ポートを挿入するところまでは胸腔鏡手術と同じですが、胸腔鏡用カメラと鉗子をロボットが操作します。ロボットを操作するのは術者ですが、ロボット用の鉗子には関節機能があり人間と同等以上の可動域があるため、より深部まで操作が可能であり、細かい手ぶれを制御できるため、より難易度の高い精密な手術が可能です。

今後の展望

ロボット手術により高次元の手術が可能となりました。ロボットという言葉は“冷たい響き”にとらえられがちですが、より人間に近い動きを実現し、より低侵襲な医療を提供できることが期待されます。

目下上昇中!

医師事務作業補助体制加算について

医療サービス課

医師事務作業補助加算は病院勤務医の負担軽減を図るため、医師の事務作業を補助する職員を配置していることを評価したのですが、新設された当初は特定機能病院では認められておらず、当院では算定することができませんでした。

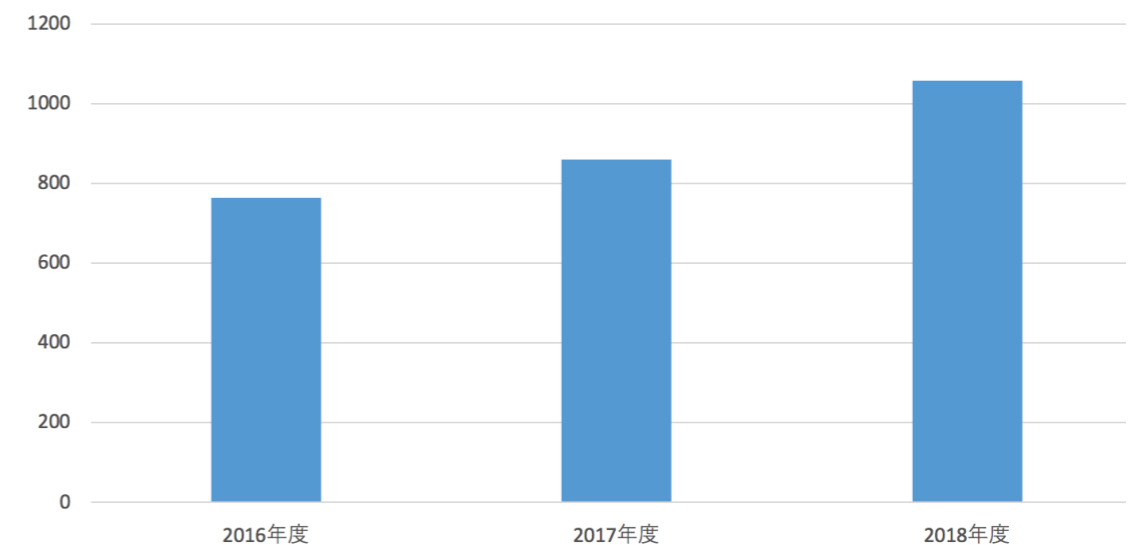
2016年の診療報酬改定により特定機能病院での医師事務作業補助体制加算の算定が認められて以降、当院でも算定に向けた体制整備を行い2017年7月から算定できることとなりました。

当院では、加算算定以前より医師事務作業を補助する事務補佐員(当院呼称・医師クラーク)を雇用し一部の診療科に配置をしていましたが、加算を算定できるようになって以降、医師クラークの処遇改善、増員が可能となり、当初は10名でスタートしましたが、現在では25名となり、増員に伴い、医師クラークの主要な業務である退院時要約の仮作成等の件数も順調に伸びてきています。

医師の働き方改革という観点では、事務作業の負担軽減は必要不可欠であり、医師クラークの活躍が重要な役割の一旦を担っているといえます。

今後についても、更なる増員と医師クラークのスキルアップに関する取り組みを行うことを予定しており、より医師が診療に集中できる環境を整えて、働き方改革を推進していきます。

医師クラークによる退院時要約仮作成件数





島大病院ニュース 2019年8月

お知らせ



島根大学医学部附属病院 医師会・歯科医師会会員の方 限定

休日人間ドックのご案内

ながい あつし
臨床検査科 長井 篤

いつもお世話になっている島根県の医師会・歯科医師会の先生方を対象に本年度も休日人間ドックを企画致しました。多忙を極める先生方と思いますが、休日を利用してがんや動脈硬化などのチェックをできるようにお手伝いします。安価で待ち時間も少なくエキスパートによる精密診断が受けられる当院の人間ドックを受検し、健康なワークライフを送って頂きますようご案内いたします。

申込については、8月の医師会・歯科医師会会報誌を通じてご案内させていただきます。
また、消費税改定を控え、日程等のご案内が遅れましたこと誠に申し訳ございませんでした。

令和元年度 日程

第1回:10月20日(日) 申込締切:9月5日(木)

第2回:12月8日(日) 申込締切:10月24日(木)

第3回:1月26日(日) 申込締切:12月12日(木)

検査内容

裏面の「検査内容のご案内」をご覧になり受検する項目をお決めください。
※ オプションドックのみの申込みも可能ですが、検査枠の関係上、先着順となります。

問い合わせ先

島根大学医学部附属病院臨床検査科

電子メール: dock@med.shimane-u.ac.jp

電話(留守電対応): 0853-20-2559

※留守電にお名前・連絡先・ご用件をお話し下さい。
後日担当者からご連絡します。

当院の人間ドックは
島根県医師会
島根県歯科医師会の
先生方を対象に
ご案内しています



島根大学医学部附属病院
Shimane University Hospital



2019年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2069 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



基本ドック・オプションドック 検査内容のご案内

基本ドック 料金:22,500円(税別)

診察等	内科診察、身長、体重、BMI、腹囲、視力、聴力
胸部健診	心電図(12誘導)、胸部X線撮影(胸部ドック選択者は省略)
眼科	眼底カメラ撮影
尿検査	尿中一般物質半定量(比重、pH、糖、蛋白、ケトン体、ビリルビン、ウロビリノーゲン、亜硝酸塩、白血球、ヘリコバクター抗体)
便検査	便中ヘモグロビン
血液一般	血液検査一般(WBC、RBC、Hb、Ht、MCV、MCH、MCHC、PLT) 血液像(好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)
生化学検査	TP、Alb、T-Bil、AST、ALT、LDH、ALP、γ-GTP、T-cho、HDL-Cho、LDL-Cho、LDL/HDL、TG、BUN、Crea、Glu、HbA1c、UA、CRP
肝炎マーカー	HBs抗原、HBs抗体、HCV抗体
腫瘍マーカー	AFP、CEA、CA19-9、CYFRA、PSA(男性)、CA125(女性)

オプションドック

(すべて税別)

上腹部ドック	腹部超音波検査	4,000円
胃痛ドック	胃内視鏡 (*経鼻、経口を選択出来ますが、ご希望に沿えない場合もございます)	9,000円
胸部ドック	胸部CT	12,000円
乳癌ドック	マンモグラフィ、問診	4,000円
骨粗鬆症ドック	骨塩定量検査(DXA)	2,000円
脳ドック	MRI検査	17,000円
頸椎症ドック	MRI検査	16,000円
腰椎症ドック	MRI検査	16,000円
婦人科ドック(頸部)	内診、経陰超音波検査(子宮・卵巣)、子宮頸部細胞診	5,000円
婦人科ドック(頸部+体部)	上記+子宮内膜細胞診	8,000円
心臓ドック	心臓超音波検査	7,000円
動脈硬化チェック	中心血圧測定、頸動脈超音波検査、脈波測定(3-4誘導)	4,000円
生活習慣病遺伝子ドック (*下記参照)	血液検査	30,500円

多くの先生方に受検して頂けるよう、本年度よりMRI検査は1部位のみのご予約とさせていただきます。(複数選択不可)

*サインポスト社(株)の遺伝子外注検査です。下記分野に関連した遺伝子を測定し、遺伝子多型(SNP)による生活習慣病リスクをチェックします。結果は約1か月後送付され、個人の体質に応じた運動・食事のアドバイスや生活習慣改善ポイントも提示されます。(詳しくは<https://www.signpostcorp.com/>)
申し込み受理後、パンフレット、同意書などの案内を送ります。

対象分野:肥満、体内老化、動脈硬化、コレステロール、高血圧、
高血糖、血栓、アレルギー、歯周病、骨粗鬆症、
関節症、近視、喫煙(副流煙)、アルコール



島根大学医学部附属病院
Shimane University Hospital



島大病院ニュース 2019年8月

ご報告



島大病院ニュース 2019年8月

ご報告



出雲キャンパスクリーンデー (6/26)の実施について

よねはら まさたか
会計課施設管理室長 米原 昌隆

6月5日は環境基本法で定められた「環境の日」です。これに基づき6月は「環境月間」と定められています。この月間に合わせて島根大学医学部では毎年出雲キャンパスクリーンデー（構内一斉清掃作業）を実施しています。元々は医学部区域を中心に実施してきましたが、一昨年度から活動が始まった附属病院の環境整備ボランティアの清掃作業と連携して附属病院区域の環境整備の充実を図るため、出雲キャンパス全体の取組として6月26日に本年度第1回目の出雲キャンパスクリーンデーを実施しました。

当日は、開始時点の天気予報では雨の予報が出ており実施が危ぶまれましたが、雨が降ることもなく過ごしやすい気温の中、約100名の職員が診療器具を持つ手を鎌や帚に持ち替え、医学部の建物周辺や附属病院建物に隣接した南側や西側区域の除草及び回収作業に従事し、さっぱりとした景観になりました。

環境整備ボランティア活動を行いました

医学部会計課施設管理室

当院の環境整備（草刈り作業等）は、外部団体のボランティアの方々に毎年定期的にお世話をいただいたり、業者委託により行ってまいりましたが、2017年9月からは、環境整備ボランティア制度を発足させ、職員・学生による環境整備を実施しています。

今回は、6月29日（土）に実施した環境整備ボランティア活動のご報告です。

当日は曇り空となり、心配された暑さもなく、午前10時～11時の間、井川病院長以下職員17名により、臨床研究棟北側からロータリー・第二研究棟南側の草刈、樹木の剪定を行い、作業終了時には生い茂っていた草や伸びていた枝が大変きれいに整備されました。

また、この日は9時から看護部による看護師宿舎周りの環境整備が行われましたが、病院長ほか一部職員は、そちらにも参加し、看護師宿舎周りも大変きれいになりました。

今後も、環境整備ボランティア活動を積極的に行い、当院の美観を維持するよう努めてまいりますので、ご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。



ご報告

島大病院ニュース

2019年8月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース

2019年8月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年8月

ご報告



職員による環境整備ボランティア活動を行いました

看護部長 たなか まなみ
田中 真美

職員による環境整備ボランティアを行いました。当初予定していた日は、大雨予報のため延期し改めて6月29日(土)に看護部宿舎周辺の草刈りを行いました。予定されていた共同研究棟の環境整備と同日に行いました。

当日は、晴天にも恵まれ、病院長はじめ看護部長も恒例である看護職員ボランティア活動に参加して頂き、事務職員、看護部職員等総勢40名による作業でした。9時からの作業は、刈払機や鎌を使っての除草と刈った草をビニール袋に入れる作業を繰り返し行い、10時には当初の予定どおり宿舎周辺はほぼ全てをきれいにすることができました。伸びきった草の中からは、鳥の雛も何匹かあらわれ、雛の居場所対応に職員が手を取られています。その後、草を集積したビニール袋を廃棄場所へ運ぶ力作業は、男性看護師を中心に行いました。

看護部では、今後も看護部宿舎だけでなく病院敷地内の美観を維持し、地域に親しまれる病院の一貫として環境整備ボランティア活動を行っていきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



ご報告
島大病院ニュース

2019年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2019年8月

ご報告



七夕会・プール開き

7月5日(金)七夕会を行いました。

数日前から、願いごとを書いた短冊や手作りの飾りを取り付けた笹飾りも完成し、各保育室・玄関に飾りました。保護者の方々にも参加していただき、「織姫と彦星」のブラックシアターや「てての会」の皆さんによる人形劇公演を見て七夕の行事を満喫しました。

7月10日(水)待ちに待ったプール開きの日。心配していた天気ですが、みんなの熱い思いで雨雲が吹き飛ばされたかのような快晴になりました。

ひまわり組(3歳以上児)の子どもたち用のプールが長年使ってきたことにより老朽化していたため、今年新しく購入していただきました。前々日から準備を始めると「うわぁ!新しいプールだねー!」、「早く入りたいなあ!」、「天気になりますように…。みんなでお願いします!」、「楽しみ～早く明日にならないかな～」等々、プール開きの日を待ち望んでいた子どもたちでした。

当日は「気持ちいい〜!」、「冷たいねえ。」と大歓声。家庭で作ってきた水あそびグッズで遊んだり、保育士の声掛けで顔つけやバタ足に挑戦したりと絶好調でプール初日を終わりました。これから8月いっぱいまで、思う存分プール遊びが楽しめそうです。



ご報告
島大病院ニュース

2019年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年8月

ご報告

出雲キャンパス学童保育『キッズクラブ太陽』 いよいよ夏休み! イベント満載です

ワークライフバランス支援室 室長 たなか まなみ
田中 真美

うっとうしい梅雨も間もなく明け、みんなが大好きな夏休みがやってきました。
習字と英語も7月からスタートし、夕方のひと時がひとときわ賑やかです。



習字(火曜日)16:00~



英語(金曜日)15:55~

1年生より順番、交代で行っていきます。

1年生 15:55~16:40
2~5年生 16:45~17:30

夏休みカレンダー

7/22(月)交流会 	7/23(火) 出雲空港	7/24(水) 王将	7/25(木) 提灯絵付け	7/26(金) 体育館	7/27(土)
7/29(月) ゴビウス	7/30(火) 清掃教室	7/31(水) 交通安全教室	8/1(木)	8/2(金)	8/3(土)
8/5(月) 木の箸作り	8/6(火) 子供科学教室	8/7(水) セタ会	8/8(木) ドコモ絵画作成	8/9(金) 体育館	8/10(土)
8/12(月)	8/13(火) 科学館	8/14(水) 風の子学習館	8/15(木) 弥生の森博物館	8/16(金) DVD鑑賞	8/17(土)
8/19(月) ぶっぴい絵画作成	8/20(火) 運動教室	8/21(水) 避難訓練	8/22(木) 藍染体験	8/23(金) 体育館	8/24(土)

ご報告

島大病院ニュース

2019年8月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2019年8月

お知らせ

下咽頭表在癌を内視鏡手術で治す

耳鼻咽喉科学講座 助教
光学医療診療部 講師

ふちわき たかふみ
淵脇 貴史
しばがき こうたろう
柴垣 広太郎

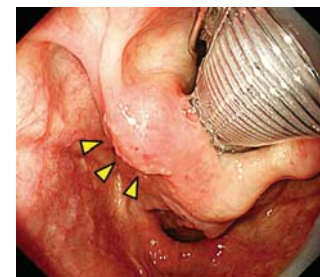
咽頭は、呼吸・発声・嚥下という重要な機能に関わる臓器です。
下咽頭癌の危険因子は飲酒で、お酒に弱いのに鍛えて強くなった人は下咽頭癌・食道癌を発症しやすいと言われています。進行下咽頭癌は予後不良で、咽喉頭食道摘出のような再建術を必要とする拡大手術は音声機能を喪失させ、化学療法・放射線治療の晩期障害による嚥下障害、唾液分泌障害は患者のQOLを低下させます。咽頭癌に対する治療は根治性と機能温存の両立が望まれており、早期発見が重要視されています。

近年、下咽頭癌は拡大内視鏡やnarrow band imaging (NBI) に代表される消化器内視鏡の進歩に伴い、咽頭表在癌として早期発見される機会が増加しています。数年前までは早期癌であっても下咽頭の視野の問題で手術・化学療法・放射線治療に頼らざるを得ませんでした。

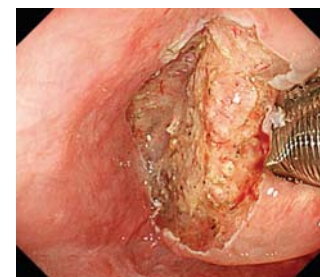
そこで我々は佐藤式彎曲型喉頭鏡を用いて喉頭を挙上することにより食道入口部まで広い下咽頭術野を確保し、消化器内科医師の協力のもと消化管領域で標準的手技である内視鏡的粘膜剥離術(endoscopic submucosal dissection: ESD)を咽頭表在癌に応用することで下咽頭表在癌を完全に摘出する方法を2016年9月から開始しました。今まで17症例にESDを行い、無再発生存16例、異時性再発1例(再治療後無再発)と良好な結果を得ています。術後も耳鼻咽喉科と消化器内科がそれぞれ定期的にフォローしていますが患者のQOLを低下させることなく再発もないことから、この治療がもっと多くの人に活用され、下咽頭癌がなくなることを切に願っております。



耳鼻咽喉科医師が下咽頭を展開し、消化器内科医師がESDで下咽頭癌を摘出する



下咽頭を佐藤式彎曲型喉頭鏡を用いて食道入口部まで展開すると左の輪状後部から梨状陥凹に腫瘍が存在するのがはっきり見えるようになる



ESDにより下咽頭の腫瘍を完全に摘出したところ

お知らせ

島大病院ニュース

2019年8月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



Hybrid-ERでの 緊急消化器内視鏡診療を開始しました

光学医療診療部	講師	しばがき とうたろう 柴垣 広太郎
高度外傷センター	助教	しもじょう よしひで 下条 芳秀

当院における消化器内視鏡件数は年々上昇傾向であり、治療内視鏡の約半数は消化管出血や急性閉塞性胆管炎などに対する緊急内視鏡であり、そのような症例では、出血や敗血症などで全身状態が悪い症例も多く、内視鏡治療だけでなく、処置中の全身状態の管理が大変重要となります。



2016年度に高度外傷センターが設立され、国立大学病院では初めてとなるHybrid-ERが設置され、多くの中等～重症の外傷患者が日々搬入されています。外傷センターには救命のスペシャリストの医師・看護師・臨床放射線技師、救急救命士が常勤し、Hybrid-ERではカテーテル治療から手術まで行うことができます。

重症の緊急消化器内視鏡診療における問題点を解決するため、2019年7月からHybrid-ERでの緊急消化器内視鏡診療を開始しました。高度外傷センターの救命スペシャリストが全身状態を管理するため、内視鏡医は安心して処置に集中することができ、処置の精度や救命率の更なる向上が期待されます。処置の安全性が担保されるだけでなく、来院後から治療開始までの時間が短縮し、IVR/手術への移行も速やかに行うことができるようになります。これにより、理想的な消化器救急診療体制が確立できると考えます。



ご報告

難病診療連携コーディネーターの役割について

わたなべ みつこ
看護部 副看護部長 渡部 光子

国は「難病の患者に対する医療等の総合的な推進を図るための基本方針（2015年厚生労働省告示第375号）に基づき、「都道府県における地域の実情に応じた難病の医療提供体制の構築について」、「難病医療提供体制の構築に係る手引き」（2017年4月14日付厚生労働省健康局難病対策課長通知）を都道府県に示し、2018年度から新たな難病医療提供体制の構築を進めています。

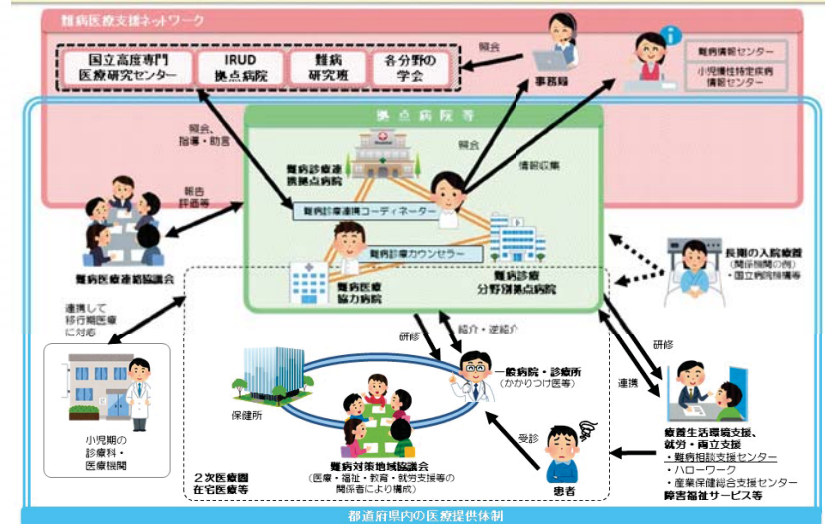
当院は、この度島根県の難病診療連携拠点病院に指定され、その中心的な役割を担うことになりました。難病診療連携拠点病院の役割は、

- (1)初診から診断に至るまでの期間をできるだけ短縮するように必要な医療等を提供。
- (2)医療従事者、患者及び家族等に対して都道府県内の難病医療提供体制に関する情報提供。
- (3)難病の患者やその家族の意向を踏まえ、身近な医療機関で治療を継続できるように支援。
- (4)難病診療連携コーディネーター・難病診療カウンセラーの配置。等とあります（難病情報センターnanbyo.or.jpより抜粋）。

難病診療連携コーディネーターは、国のシステムと拠点病院の連携（例えば診断に至っていない患者のIRUD（Initiative on Rare and Undiagnosed Disease）への登録）や拠点病院と県の行政機関や難病医療連絡協議会、県内各病院、難病相談支援センター（島根県では下記ヘルスサイエンスセンター島根）、ハローワーク等と連携し、難病診療連携拠点病院の役割(1)-(3)を推進する中心的な役割を担っていく必要があります。

公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根において、しまね難病相談支援センターでは、日々県内の難病患者、ご家族からの療養上の悩みや就労などについての不安の解消を図るとともに、様々な相談ニーズに対応した支援が行われています。これらの機関とも連携して、神経、膠原病、消化器、内分泌代謝、心臓、呼吸器、皮膚、遺伝、小児など、全ての難病患者のための連携システムを構築し、島根大学医学部附属病院が拠点病院としての役割を担うことが重要であると考えます。新しい難病医療提供体制は始動しはじめたばかりですが、より良い医療や支援の連携を図っていきたいと思います。

新たな難病の医療提供体制のイメージ（全体像）



難病情報センターhttp://www.nanbyo.or.jp/at_files/0000/2014/5860-20181106.jpg より抜粋





島大病院ニュース 2019年8月

ご報告



島大病院ニュース 2019年8月

ご報告

経皮感作により発症する食物アレルギー

皮膚科診療科長 もりた えいしん
森田 栄伸

小児のアトピー性皮膚炎に食物アレルギーが合併することはよく知られています。従来は、「食物アレルギーがアトピー性皮膚炎の原因となる、あるいはアトピー性皮膚炎を治りにくくしている」と考えられ、小児のアトピー性皮膚炎では抗原性の高い食品(卵、ミルク、大豆など)は摂取を控えるように指導されてきました。

こうした中、英国の小児科医Gideon Lack先生は、詳細な環境調査と臨床的観察から2008年「二重抗原曝露仮説」という論文をJournal of Allergy and Clinical Immunology誌に発表しました。これは、「アトピー性皮膚

炎に見られる食物アレルギーは皮膚炎部から入った極微量の食物抗原が感作の原因であり、その食物を食べると食物アレルギーを発症するもので、元来食物を摂取すること自体は食物抗原への耐性を獲得させている」という理論です。

この論文が発表されるとアレルギー学領域では大きな反響を呼びました。その後、この仮説を支持する臨床研究が次々と発表され、現在では「アトピー性皮膚炎が食物アレルギーの原因であり、食物抗原への感作が起きる前に皮膚炎を治すことが大切である」と考えられるようになりました。つまり、乳児期の皮膚炎を外用薬にて速やかに治療することで小児の食物アレルギーは根絶できる可能性があるのです。また、成人に見られる食物アレルギーもかなりの場合、経皮あるいは経粘膜感作にて発症することも明らかになっています。

図の説明 Lack先生の二重抗原曝露仮説

(Lack G: J Allergy Clin Immunol 2008; 121: 1331 - 1336より作成)

食物抗原による経腸管感作は食物耐性を誘導し、経皮感作は食物アレルギーを誘導する。



妊産婦メンタルケアへの取り組み —産前産後のうつ病予防効果が示されました—

精神科神経科 講師 はやした まいこ
林田 麻衣子
産科婦人科 講師 みなもと としこ
皆本 敏子

島根大学医学部附属病院精神科神経科では2018年より妊産婦を対象とした、周産期メンタルケア外来を開設し、精神科医、産科医、臨床心理士、助産師、看護師、社会福祉士、精神保健福祉士などの多職種で診療にあたっています。

日本の直接的産科死亡率(産後6週以内の死亡率)の低さは世界トップレベルですが、妊産婦自殺率(/10万出産)は、妊産婦メンタルケアの先進国であるイギリスが2.3に対し、東京は8.7と高値であり、より一層妊産婦メンタルケアを推進する必要があります。

産前産後に7人に1人の割合でうつ病を発症すると言われ、妊娠中の未治療の抑うつや不安などの精神状態は母体だけでなく児の認知、情動、行動の発達過程に否定的な影響を及ぼし、神経発達障害との関連が示されています。その一方で、親となる世代の精神保健の問題への適切な治療や支援は子育て環境の改善、児の成長発達に良い影響をもたらします。

妊産婦のうつ病発症予防法は今まで明らかではありませんでしたが、米国予防医療専門委員会(USPSTF)が2019年2月に画期的な報告を行いました。妊娠中の定期的な精神療法が産前産後のうつ病の発症を39%も減少させ、推奨される予防法であることを質の高いエビデンスで示したのです。

周産期メンタルケア外来では精神療法とともに、薬物治療が必要である際には、相談の上必要最小量にて実施しております。また、多職種連携による心理社会的サポートも行っており、サポートによる環境改善が妊産婦の不安、抑うつ症状の改善をもたらす、生物学的に脳機能の改善をもたらすことも判明しています。このように包括的アプローチを行うことで、親子二世代のウェルビーイングの要となる妊産婦の皆様をより一層、支援していきたいと考えています。

周産期メンタルケアによる母児両者への予防医療



問合せ先 精神科神経科外来 0853-20-2388

ご報告

島大病院ニュース

2019年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース

2019年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

